

みやぎの

6月号

農業普及現場



普及活動標語

思いを形に、あなたのチャレンジ支えます。
応援します。農業普及

NEWS LETTER No.208 2024.6

紹介内容（5/1～5/31）

1. みやぎの農業を担う次代の人材育成と革新技術の活用等による生産基盤の強化

- ① 先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
 - 栗原農改：農業大学校1年生が普及センターを訪問しました
 - 美里農改：春の青空の下、麦類現地検討会が開かれました
 - 大崎農改：令和6年度「JA古川子実用とうもろこし播種実演会」が開催されました
 - 石巻農改：JAいしのまき稲井園芸生産組合 そらまめ現地検討会 開催！
 - 石巻農改：やもとハウス園芸組合 促成きゅうり現地検討会 開催！
 - 石巻農改：加工用ばれいしょやさつまいもを推進！石巻地域「ポテト通信」発刊！

- ② 新たな担い手の確保・育成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
 - 石巻農改：「みやぎ水産の日」展示販売会が開催されました
 - 亘理農改：みやぎ農業未来塾「地域農業紹介講座」を開催しました
 - 石巻農改：宮城県農業大学校入校生が普及センターを訪問しました
 - 大崎農改：農大生の普及センター訪問がありました
 - 仙台農改：みやぎ農業未来塾 就農準備塾を開催しました！
 - 登米農改：【登米市4Hクラブ・耕作放棄地栽培プロジェクト】枝豆の播種を行いました！
 - 気仙沼農改：たけのこ料理講習会が開催されました

- ③ 先端技術等の推進・普及による経営効率化・省力化・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
 - 栗原農改：水稻乾田直播栽培試験展示ほ現地検討会が開催されました
 - 石巻農改：マウント型ブームスプレーヤーで薬液量も時間も節減！
 - 大河原農改：自動操舵システムを活用した労務改善効果の測定を行いました
 - 仙台農改：大規模露地園芸アグリテック実演会が開催されました！
 - 大河原農改：圃場整備事業の一部完成を祝うセレモニーとスマート農業技術を導入した田植機、トラクタ等の実演会が開催されました

- ④ 園芸産地の育成・強化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
 - 美里農改：JA新みやぎみどりの地区夏秋きゅうり部会栽培講習会が開催されました
 - 亘理農改：幻のメロン「クールボジャ」の栽培が始まりました
 - 大河原農改：いちご新品種「みやぎi3号」の栽培について学びました
 - 気仙沼農改：枝もの用クロマツの播種作業研修会が開催されました
 - 仙台農改：JA新みやぎあさひなモロヘイヤ部会栽培講習会が開催されました！
 - 石巻農改：高品質なぶどうを育てるためのノウハウを学ぶ
 - 大崎農改：さつまいも栽培研修会が開催されました
 - 大河原農改：村田町でそらまめの出荷会議及び現地検討会が開催されました
 - 登米農改：JAみやぎ登米りんご生産部会総会を行いました
 - 栗原農改：シャインマスカット栽培技術研修会を開催しました

- 登 米農改：登米管内各園芸部会の総会が開催されました
- 亘 理農改：さつまいも苗移植機の実演会が開催されました
- 大河原農改：ぶどう栽培講習会が開催されました！
- 美 里農改：北浦梨の摘果講習会が開催されました
- 登 米農改：JAみやぎ登米そらまめ部会の現地検討会が開催されました
- 石 巻農改：抑制きゅうり品種説明会が開催されました！

⑤ 収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

- 石 巻農改：種子大麦生産ほの第1期ほ場審査を行いました！
- 登 米農改：稲種子生産ほの育苗巡回を行いました
- 石 巻農改：上品山牧場の開牧式が行われました
- 栗 原農改：深山牧野で牛の放牧がはじまりました！
- 気仙沼農改：えだまめの播種作業が行われました

2. 多彩な「なりわい」の創出や多様な人材・機関との連携による持続可能な農業・農村の構築

① 環境に配慮した持続可能な農業生産の取組支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

- 気仙沼農改：気仙沼金のいぶき協議会の令和6年度通常総会が開催されました
- 登 米農改：「グリーンな栽培体系」を目指して、ペースト二段施肥田植が行われました

1. 人材育成・生産基盤の強化

①先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援

○農業大学校 1 年生が普及センターを訪問しました

令和6年5月1日
栗原農業改良普及センター



令和6年4月26日に栗原市内の高校を卒業した宮城県農業大学校1年生2名が栗原農業改良普及センターを訪問しました。

はじめに農業改良普及センター職員から、栗原地域の農業の概要や普及センターの仕事、新規就農者支援の概要について紹介し、その後に質疑応答や進路について意見を交換しました。訪問した学生はいずれも農家出身で、親元就農や雇用就農など進路が明確であり、強い学習意欲が感じられました。

卒業後は地元での自営就農あるいは農業法人への就職を希望していることから、今後も農業大学校と連携して支援していきます。

○春の青空の下、麦類現地検討会が開かれました

令和6年5月7日
美里農業改良普及センター



4月中旬、美里管内の各地域では麦類の現地検討会が開催されました。15日の涌谷町の現地検討会は、晴天に恵まれ、うららかな日差しの下で行われました。

小麦標準栽培では、越冬後に3回の追肥を行います。今回は、減数分裂期追肥に向けて、草丈、茎数、幼穂長などを確認し、生育に合わせた追肥時期等の検討を行いました。春先から暖かい日が続いていることから、生育が旺盛なほ場が大半でしたが、予想以上に出穂が早まりそうな状況となっており、参加者から「早速機械の準備をしなければ」「春は暖かいと

忙しい」とうれしい悲鳴があがりました。

畦畔では、参加者同士で麦の検討を行いながら、水稲の作業進捗や苗の生育についても情報交換するなど、充実の春のひと時でした。

○令和6年度「JA古川子実用とうもろこし播種実演会」が開催されました

令和6年5月7日
大崎農業改良普及センター



JA古川主催による「子実用とうもろこし播種実演会」が令和6年4月19日に開催されました。JA全農とJA古川が大崎市で取り組む子実用とうもろこしの大規模栽培実証が3年目を迎え、生産者や関係機関の出席により一層の収量向上支援のひとつとして開催されたものです。

令和6年度のJA古川管内の子実用とうもろこしの生産は、28組織で107ha（令和5年は30組織で106ha）の栽培を予定であり、目標平均収量700kg/10a（令和5年実績：567kg/10a）の達成を目指します。このため、重要なポイントとなるのが苗立ち確保（目標7,000本/10a 令和5年度比100本増）であり、7,400粒/10aを播種することの徹底が確認されました。当実証を通じて、JA古川は、子実用とうもろこし、大豆、水稲乾田直播体制の3年3作輪作体系の確立により、担い手の所得向上を目指しています。

普及センターとしても令和5年度からプロジェクト課題に取り上げ、関係機関と連携しながら、生産者の技術の確立と定着に向け取組を支援しています。

**○JAいしのまき稲井園芸生産組合 そらまめ現地
検討会 開催！**

令和6年5月8日

石巻農業改良普及センター



令和6年4月26日に、JAいしのまき稲井園芸生産組合のそらまめ現地検討会が開催されました。生産者8名が参加し、互いのそらまめほ場を見て、作柄を検討しました。

昨冬は温暖な日が多く平年と比べ気温が高く推移し、4月に入ってから暖かい日が続いたため、例年に比べると生育が早く、早いものでは莢を付け始め、収穫は早まる見込みです。

普及センターからは、追肥や病害虫防除のほか、採光を良好にするための株元への土入れや窒素過多に注意することなどの情報を提供しました

生育が順調に進むと一か月後の5月下旬ごろに収穫できる見込みで、主に京浜市場に出荷される予定です。

**○やもとハウス園芸組合 促成きゅうり現地検討
会 開催！**

令和6年5月13日

石巻農業改良普及センター



令和6年4月23日に、やもときゅうり園芸組合の促成きゅうり現地検討会が開催されました。生産者6名のハウスを種苗会社や資材会社、JAいしのまき、普及センターで巡回し、生育状況を検討しました。

今作は、例年通り1月下旬から2月中旬に定植され、3月上旬から中旬に出荷が始まりましたが、2月中旬から3月上旬の低温により根張りが弱く子づるの発生も抑制されたほか、一部の圃場では、褐斑病やアブラムシの発生が見られました。これまでの収量は、前年と比べやや少なめでしたが、4月以降の好天で樹勢が回復し、今後は出荷の増加が見込まれます。

促成栽培は、6月末までの出荷が予定されており、今後も定期的な巡回指導により安定生産を支援していきます。

**○加工用ばれいしょやさつまいもを推進！石巻地
域「ポテト通信」発刊！**

令和6年5月29日

石巻農業改良普及センター



令和6年5月27日、近年石巻地域で取組が拡大している加工用ばれいしょとさつまいもの生産現場のトピックスや技術情報等を紹介する「ポテト通信」を創刊しました。

創刊号は東松島市の大規模法人のばれいしょ植付けの準備や植付けの様子、今後の栽培管理などが中心の内容です。

今後、地域内での取組拡大を期待しながら2か月に1回程度の発行を予定しています。

②新たな担い手の確保・育成

○「みやぎ水産の日」展示販売会が開催されました

令和6年5月1日

石巻農業改良普及センター



4月17日（水）に、東部地方振興事務所水産漁港部主催の、「みやぎ水産の日」展示販売会が開催され、地元で生産された美味しい水産加工品や農産品等が出品されました。

石巻地域生活研究グループ員も、野菜や水産加工品、手作りスイーツの販売をしました。美味しくてお買い得な品ばかりで、箱買いしていく常連のお客様もいらっしやり、大変にぎわいました。

来月の「みやぎ水産の日」展示販売会は、5月15日（水）です。

是非、足を運んでお買い求めください。

○みやぎ農業未来塾「地域農業紹介講座」を開催しました

令和6年5月7日

巨理農業改良普及センター



令和6年4月26日、当普及センターを会場として、みやぎ農業未来塾「地域農業紹介講座」を開催しました。

講座では宮城県農業大学校1年生7人が出席し、当普及センターから管内の地域農業の概況、普及センターの仕事内容及び役割、就農支援等について説明した後、意見交換を行いました。

出席した学生からは、地域農業について、東日本大震災前後の営農の変化や、これからの農業に求められる資質等、多数の質問があり意欲的に学習する姿が印象的でした。また、意見交換では、農業大学校で学びたいこと、将来の目標等を発表していただきました。卒業後の進路を見据え、目標を持ち、農業大学校で学んでいこうとする姿勢が見受けられとても頼もしく感じました。

当普及センターでは、今後も農業大学校と連携しながら地域の担い手の確保及び育成に努めてまいります。

○宮城県農業大学校入校生が普及センターを訪問しました

令和6年5月9日

石巻農業改良普及センター



令和6年4月26日、宮城県農業大学校に今年度入学した石巻管内出身の1年生4名が普及センターを訪問しました。

これは、出身地域の農業の現状や普及センターの役割等を学んで、就農後の営農に役立てることを目的に実施しているものです。

普及センター職員から、石巻地域の農業と普及センターの業務内容を説明し、県内や管内で作付けされている作目を説明すると、学生さんは石巻では恵まれた気候を活かして季節を問わず多くの品目が作付けされていることに驚きながら、熱心に話を聞いていました。

9月から、農業の現場を直接体験できる農業体験学習を行うことになっており、将来に役立つ研修となるよう引き続き支援をしていきます。

○農大生の普及センター訪問がありました

令和6年5月9日

大崎農業改良普及センター



この春、宮城県農業大学校に入学したばかりの1年生が、出身地の農業の現状や普及センターの業務について学習する、普及センター訪問が令和6年4月26日に行われました。管内の大崎市、加美町出身の学生が来所し、学習を行いました。

普及センターを訪問するのは2人とも初めてとのことで、職員の説明にメモを取りながら熱心に聞いていました。また、県の園芸振興に関することや、どうすれば普及指導員になれるのか等、職員からの説明に対して率直な質問が出されました。

普及センターでは、今後も農業大学校と連携しながら、新規就農者を含め地域の担い手の確保・育成に努めていきます。

○みやぎ農業未来塾 就農準備塾を開催しました！

令和6年5月13日

仙台農業改良普及センター



令和6年4月26日（金）、宮城県農業大学校の新入生14名の普及センター訪問に合わせ、「みやぎ農業未来塾 就農準備塾」を実施しました。

普及センターの職員から、普及指導員の仕事、仙台地域の農業の概要及び新規就農者向けの支援制度についての講義を行い、学生方は真剣な面持ちで話を聞いたり、時には職員の話に笑顔を見せたりといった様子が見られました。

質疑応答の際には、学生方から「普及指導員の魅力や、やりがいはなにか」といった普及業務に関する質問だけでなく、「将来、独立して稲作をやりたいが大変か」、「食品加工をやりたいが、食品ロスの量はどれ

くらいか」、「大学への編入、卒業後も就農資金は使えるか」などのような、将来を見据えた質問もありました。

これからも仙台農業改良普及センターでは、新規就農者の支援に取り組んでまいります。学生の皆さんが将来就農する際に、また一緒に仕事できることを期待しております！

○【登米市4Hクラブ・耕作放棄地栽培プロジェクト】枝豆の播種を行いました！

令和6年5月22日

登米農業改良普及センター



令和6年4月29日(土)～30日(日)に登米市米山町で、耕作放棄地での野菜栽培を行う「耕作放棄地栽培プロジェクト」として、枝豆の播種を行いました。作業は、畝立て、播種、除草剤の散布、防鳥糸の展張を行いました。高い気温の中での作業でしたが、作業は順調に進行し、最終的には約3アールの面積に枝豆を播種しました。今後は、サツマイモの定植や玉ねぎの収穫などの作業を予定しており、収穫した野菜は即売会で販売する予定です。

普及センターでは、登米市4Hクラブの活動を今後も支援してまいります。

○たけのご料理講習会が開催されました

令和6年5月28日

気仙沼農業改良普及センター



気仙沼地区生活研究グループ連絡協議会では、気仙沼管内にモウソウチクやマダケの竹林が多くあることから、地域食材としての活用について調理実習を通して検討するとともに、会員同士の交流を図るため、令和6年5月23日にたけのご料理講習会が開催されました。

当日は、24人のグループ員が参加し、たけのご飯などたけのこを使った料理4種類を調理しました。

グループ員同士でたけのこの切り方などを相談する場面が見られるなど、楽しく調理が行われ、完成した料理がテーブルに並べられると、食事しながら賑やかに情報交換が行われていました。

気仙沼地方振興事務所林業振興部の職員からも、「竹林の活用事例について」というテーマでメンマの作り方などが紹介され、興味深く聞き入っている様子でした。

普及センターでは、今後も会の活動を支援していきます。

③先端技術等の推進・普及による経営効率化・省力化

○水稻乾田直播栽培試験展示ほ現地検討会が開催されました

令和6年5月7日

栗原農業改良普及センター



令和6年4月16日(火)に、JA全農みやぎが水稻乾田直播栽培の栗原地域での取り組み推進を図るため、栗原市金成地区に設置した試験展示ほで現地検討会を開催しました。水稻乾田直播栽培に関心のある生産者をはじめ、栗原市やJA新みやぎの職員約60人が参加しました。

検討会では、農研機構東北農研センター水田輪作研究領域の研究者から「栽培のポイント」について、クボタアグリサービス株式会社仙台事務所仙台担い手推進部の職員から「パワーハロー、グレーンドリル播種機、鎮圧ローラーの特徴と作業のポイント」について説明が行われました。

展示ほの設置に協力した営農組合は、初めて乾田直播栽培に取り組むこともあり、真剣に説明を聞いていました。また、参加した生産者も、近い将来の取組に向けて興味深く聞いていました。

実際の播種作業は4月20日に実施されました。

普及センターでは、今後も生育調査に基づいた情報の発信など、乾田直播栽培の収量・品質の安定生産に向けて支援してまいります。

○マウント型ブームスプレーヤーで薬液量も時間も節減！

令和6年5月8日

石巻農業改良普及センター



令和6年4月23日(火)に石巻市の(有)高須賀農産で、トラクターマウント型ブームスプレーヤーの実証試験を行いました。

本実証試験は、みやぎRTKコンソーシアムのモデル実証の1つで、1,600L(従来の2倍以上)の大容量ブームスプレーヤーを使用し、水稻乾田直播栽培の除草剤散布作業の効率化を検証するものです。実証機械はタンク容量の大きさに加え、散布幅が21m(従来16m)と広く、走行速度も4km/h(従来2km/h)と速いため、作業時間は従来の38分/haから14.5分/haとなり、作業時間の短縮効果がありました。また、セクションコントロール機能で、散布の重複を解消し、使用薬液を最小限にする効果も期待されました。

石巻地域では乾田直播栽培が1,000haと拡大しており、播種や除草などの適期管理が求められます。

当普及センターでは、今後もスマート農業技術の活用による省力化に向けた支援を行っていきます。

○自動操舵システムを活用した労務改善効果の測定を行いました

令和6年5月10日

大河原農業改良普及センター



大河原農業改良普及センターの令和6年度重点活動「中山間地域におけるスマート農業導入効果」の取組の一環として、七ヶ宿町の農事組合法人において、自動操舵システムを活用した労務改善効果の測定を行いました。

同法人では昨年度から、七ヶ宿町が県の補助事業を活用して整備したRTK基地局を利用する自動操舵システムトラクター等を農作業で活用しています。

今回は、代かき作業におけるトラクター運転時の身体への負担を、筋電計(N社製筋電図解析システム)を用いて測定しました。

今後も、管内における農作業の更なる省力化や軽労化が実現されるよう、取組を進めてまいります。

○大規模露地園芸アグリテック実演会が開催されました！

令和6年5月14日

仙台農業改良普及センター



令和6年4月30日に大郷町の有限会社薬師農産のほ場を会場として、大規模露地園芸アグリテック実演会が開催されました。

実演会では、ヤンマーアグリジャパン株式会社の協力のもと、エダマメ生産における全工程機械化一貫体系の実証とPRを行うため、RTKシステムを活用した耕起、播種、除草剤散布の実演が行われました。

パワーハロー、真空播種機、トラクター積載型のブームスプレーヤーを使用した機械化播種体系と、RTKシステムの組合せによって実現された高速かつ高精度な播種作業は、スムーズかつ操縦者の負担が最小限で行えるため、参加者は大きな関心を寄せていました。

昨年度から本格稼働したRTKシステムは、令和6年1月末現在で県内132経営体において活用されており、今後も導入の拡大が期待されます。普及センターでは、今後もアグリテックの普及拡大を支援してまいります。

○圃場整備事業の一部完成を祝うセレモニーとスマート農業技術を導入した田植機、トラクタ等の実演会が開催されました
 令和6年5月20日
 大河原農業改良普及センター



角田市の尾袋川東地区では、既存の水田を2ha区画に作り直し、更に自動水管理システムの導入を行う工事(圃場整備事業)を令和3年から実施しています。工事は令和11年に終了予定ですが、今回計画のうち一部が完了したことで営農可能な水田ができたことから、それを祝してのセレモニーが行われました。

また、完成した水田を会場に、大手農機具メーカー3社による自動操舵システムを導入した田植機、トラクタ等のスマート農業機械の実演会も併せて開催されました。

大河原農業改良普及センターでは、これまで当地区の担い手法人設立等の支援を行ってきたことから、セレモニーに来賓として招かれました。また、同日に実施されたスマート農業実演会にも参加し、実際に田植機に試乗する等、今後の技術普及に向けた知見を得ることができました。

今後も、管内における担い手の育成及び農作業の更なる省力化や軽労化が実現されるよう、取組を進めてまいります。

④園芸産地の育成・強化支援

○JA新みやぎみどりの地区夏秋きゅうり部会栽培講習会が開催されました
 令和6年5月1日
 美里農業改良普及センター



令和6年4月19日に新みやぎみどりの地区夏秋きゅうり部会栽培講習会が開催され、部会員8人が参加し、これからの時期の肥培管理のポイントや夏季の高温対策などについて学びました。

はじめに、株式会社ときわ研究所渡辺副所長から、夏秋きゅうり栽培の基本や昨年の夏の高温の影響などを振り返りながら、夏季の高温対策などについて説明がありました。

次に、普及センターからは、過去5年間の土壌分析結果の推移について説明しました。土壌の塩基バランスの崩れが課題として残っていますが、着実に改善しているほ場もあり、部会員の土壌改良に関する意識の高まりが見られました。

部会員からは「今年も暑くなりそうなので、かん水方法などを考えたい。」「土の状態の移り変わりが分かって参考になった。」といった声がありました。

近年の野菜栽培では、異常気象への対応や環境に影響を配慮した肥培管理等が一層求められています。

普及センターでは、異常気象への対策や土壌分析に基づく施肥設計などを支援し、園芸品目の安定生産、環境にやさしい農業生産を推進していきます。

○幻のメロン「クールボジャ」の栽培が始まりました
 令和6年5月7日
 巨理農業改良普及センター



令和6年4月、岩沼市の農事組合法人林ライスにおいて、全国でも一部地域のみで栽培されている幻のメロン「クールボジャ」の定植が始まりました。同法人では、高齢化により栽培を断念した相野釜ハウス園芸組合から施設等を譲り受け、園芸組合の元組合長の指導のもと令和5年度から栽培に取り組んでいます。

昨年度は、譲渡されたハウス12棟（約40a）のうち6棟で栽培しましたが、全ての予約注文に応じきれなかったことから、今年度は12棟全てに作付けしました。

4月上旬から3回に分けて定植が行われ、4月末現在、概ね順調に生育が進んでいます。すでに100件以上の予約注文が入っており、同法人では、6月中旬からの収穫・出荷に向けて、より一層丁寧な栽培管理に取り組んでいくこととしています。

普及センターでは、同法人が安定的な生産が可能となるよう、「クールボジャ」の栽培マニュアルの作成を支援していきます。

○いちご新品種「みやぎi3号」の栽培について学びました

令和6年5月9日

大河原農業改良普及センター



令和6年4月18日、いちごの新品種「みやぎi3号」を試験栽培する農家が農業・園芸総合研究所を訪れ、品種の特性や栽培上の注意点等について学びました。

「みやぎi3号」は宮城県が育成した草勢が強く、大玉で多収、良食味の品種です。直売所への出荷や摘み取り園での栽培に向いており、大河原農業改良普及センター管内では、令和7年産で初めて栽培・出荷される品種です。

試験栽培を行う農家2戸は、実際に栽培されている新品種を見るのは初めてで、草姿や果実の大きさに感心しながらも、試験場の担当者に栽培上の注意点を確認していました。

農家からは「かなり大きい品種なのでパック詰めには工夫が必要」といった意見が出されました。普及センターでは、栽培農家の生育状況等を確認し、仙南のいちごの生産振興につながるよう、支援していきます。

○枝もの用クロマツの播種作業研修会が開催されました

令和6年5月15日

気仙沼農業改良普及センター



令和6年5月10日、南三陸町において県主催による枝もの用クロマツ播種作業研修会を開催しました。

研修会には、宮城県クロマツ研究会員12人、県関係者8人の合計20人が参加。

南三陸町で枝もの用クロマツの生産に取り組んでいる株式会社南三陸 Pine Proの後藤社長が講師となり、機械操作時の注意点や播種量について説明したのちに播種作業の実演を行いました。

これまで、南三陸 Pine Proでは手播きや電動播種機で播種していましたが、覆土の厚さにムラがあり出芽揃いに難があったことから、今年度は溝堀、播種、覆土を一工程で行えるエンジン付き播種機を利用しました。

枝もの用クロマツは、播種の1年後に苗を抜き取り、別のほ場に定植して3年後に出荷するため、定植する苗の出来が商品に影響することから、参加した会員は播種作業を真剣に見学したほか、実際に播種機を操作して手応えを感じた後には、自分達のほ場で播種する場面を想定しながら後藤社長と情報交換を行っていました。

県では、枝もの用クロマツ生産を拡大するため、各種の研修会等を企画していますので、興味のある方は参加してみませんか。

○JA新みやぎあさひなモロヘイヤ部会栽培講習会が開催されました！

令和6年5月21日

仙台農業改良普及センター



令和6年5月14日にJA新みやぎあさひな統括営農センターにおいて、あさひなモロヘイヤ部会栽培講習会が開催されました。栽培講習会は数年ぶりの開催ですが、田植え等の農繁期の中10人が参加しました。

講師に渡辺採種場常務取締役の酒井隆志氏を迎え、

育苗～収穫までの栽培のポイントについて説明がありました。酒井氏は30年以上前から大郷町のモロヘイヤ栽培立ち上げから関わっており、当時は種子探しから始まり手探りで栽培方法の検討を行い、その後生産が拡大し大郷町が「モロヘイヤの里」として定着しました。

近年、夏季の高温によりほうれんそう等は栽培できない状況にあるものの、モロヘイヤは高温を好む作物として積極的に取り入れてほしいとの呼びかけもありました。

品質の良いモロヘイヤが提供できるよう、これからも普及センターではモロヘイヤ生産を支援していきます。

○高品質なぶどうを育てるためのノウハウを学ぶ 令和6年5月24日 石巻農業改良普及センター



令和6年5月21日、JAいしのみき主催で直売所等にぶどうを出荷している生産者16人を対象に栽培講習会が開催され、普及センター職員が講師として指導を行いました。

生産者は主にシャインマスカットを栽培しており、その誘引や摘心、花穂整形などの実演を行ったほか、適正な着果数の考え方や無種子化・肥大促進のための植物成長調整剤の使用法、病虫害防除等についても指導を行いました。

シャインマスカットの殆どは、これから満開期を迎え栽培管理する上で重要なステージに入ります。

今回の講習会で得たスキルを自身の園地で実践し、収穫期には見事な果実になることが期待されます。

○さつまいも栽培研修会が開催されました 令和6年5月24日 大崎農業改良普及センター



令和6年5月21日に加美町を会場に宮城県と全農

みやぎ主催で「令和6年度宮城県さつまいも栽培研修会」が開催され、大崎農業改良普及センター管内からは、JA加美よつばのさつまいも生産者12名が参加しました。研修会では、育苗や定植のポイントを学ぶとともに、現地ほ場で新型の移植機の実演が行われました。新型機では植え付け精度が向上しており、規模拡大を目指す生産者からは高い期待の声が聞かれた一方で、植え付けの精度には整った畝の成型状況や苗の大きさも影響するため、導入にあたっては十分な条件を整える必要があることも確認できました。このほか、県で進めるさつまいもの施策や県産さつまいもの流通販売情勢等についての情報提供もあり、新規で栽培を検討している生産者からは安心して栽培に挑戦できるとの感想も上がっていました。

また、県の研修会に続き、管内の新規の生産者を対象にした手植えによる移植の研修会を開催しました。さつまいも栽培のベテラン生産者が移植作業の実演を行い、さつまいもの移植に使う器具や「船底植え」や「斜め植え」といった特徴的な移植方法を学びました。

大崎農業改良普及センターでは、新規作付け者の安定栽培に向け、研修会等を通じて、引き続き支援を行ってまいります。

○村田町でそらまめの出荷会議及び現地検討会 が開催されました 令和6年5月27日 大河原農業改良普及センター



令和6年5月22日にJAみやぎ仙南村田地区そらまめ部会の令和6年産そらまめ出荷販売会議及び現地検討会が開催されました。出荷販売会議では全農の担当者から出荷規格と販売情勢について説明がありました。普及センターからは品質の高いそらまめの出荷に向け、病虫害防除と収穫の際の注意点を中心に説明をしました。会議が終わった後も現物を見ながら栽培や出荷について熱心に情報交換する生産

者の姿が見られました。

その後、現地検討会が部会内のベテラン生産者のほ場で行われ、栽培管理について活発な意見交換が行われました。

普及センターでは、今後も村田町におけるそらまめの生産量増加に向けた支援を続けてまいります。

○JAみやぎ登米りんご生産部会総会を行いました

令和6年5月27日

登米農業改良普及センター



登米市では、中田町、東和町、登米町を中心にりんごが約26ha栽培され、県内有数の生産地となっています。木の上で完熟させてから収穫する樹上完熟を特徴としており、品質に優れるという評価をいただいています。

去る5月10日に登米市のりんご生産を担うJAみやぎ登米りんご生産部会通常総会が行われ、会員12人が出席しました。総会では、令和5年度事業実績、令和6年度事業計画などが原案通り承認されたほか、「栽培技術の向上、りんご・果樹の振興」に重点をおいて活動していくことを確認し、部会員間での情報交換も積極的に行われました。

普及センターでは、今後もJAみやぎ登米りんご生産部会の活動について支援を行ってまいります。

○シャインマスカット栽培技術研修会を開催しました

令和6年5月27日

栗原農業改良普及センター



令和6年5月23日(木)に栗原市金成で「シャインマスカット栽培技術研修会」を開催しました。

当日は、シャインマスカットの生産者や今後導入予定の方々、合わせて53人の参加がありました。

現地ほ場の園主である田中学さんを講師として、普及センターが作成した「栽培暦」、「ジベレリン処理の留意点」と講師が作成した作業記録等に基づき、房

づくりのポイントや新梢管理について、実演を交えながら講義を行いました。

参加者からは、栽培管理に関する多くの質問が出されるなど、熱心に意見交換が行われていました。

普及センターでは、栽培者の増加と生産技術の向上に向けた活動を進めてまいります。

○登米管内各園芸部会の総会が開催されました

令和6年5月27日

登米農業改良普及センター



JAみやぎ登米では、4月中旬から5月中旬までに花きを含む10部会以上の総会を開催し、普及センター職員もそれぞれの総会に出席しました。

このうち4月19日に開催されたねぎ部会総会では、「昨年度の猛暑による品質や収量への影響もあったが、年間販売額は3,078万円と目標を達成することができた」と部会長からの挨拶があった後、議案審議が行われ、3議案全てが原案通り承認されました。最後に、令和6年度も「出荷規格の統一化」や「安定的な輸送経路の構築」等、8項目の基本方針に沿って活動していくことを部会員間で確認し、閉会となりました。

普及センターでは、今後も各部会の活動について支援を行ってまいります。

○さつまいも苗移植機の実演会が開催されました

令和6年5月28日

亘理農業改良普及センター



令和6年5月17日に株式会社おひさま村の亘理町吉田ほ場を会場に生産者や関係機関10人が参加して宮城県園芸推進課主催でさつまいも移植機の実演会が開催されました。

会場になった株式会社おひさま村では、令和5年度に、GPS機能付きトラクター、マルチャー、専用の収穫機等を導入し、機械化体系による大規模化を図っています。今回の会場では、GPS機能付きトラクターでうね立てを行っており、等間隔のまっすぐなうねを作ることができました。

さつまいも苗移植機の実演会では、立ったまま苗を供給ホルダーにセットすると自動で設定した株間で植え付けを行っていきましました。作業能率は手植えと同等ですが軽労化が期待されます。今回は、挿し苗の手直しが必要でしたが、機械に合った大きさの苗を用意することと畑の状態に合わせて機械を調整することで改善されるそうです。生産者は移植機を導入するうえで参考になっていました。

普及センターでは、今後も育苗、定植、収穫の作業を中心とした栽培技術の向上について支援を行っていきます。

○ぶどう栽培講習会が開催されました！ 令和6年5月28日 大河原農業改良普及センター



仙南地域の丸森町や蔵王町などでは、生食用ぶどうの栽培が進められており、中でも「シャインマスカット」の作付が増加しています。大河原農業改良普及センターでは、これらの生食用ブドウの生産拡大を支援しています。

5月15日に開催された丸森町ぶどう栽培講習会では、今年初収穫を迎える新規栽培者を含め計19名が参加しました。普及センターは講師として花穂整形やジベレリン処理を中心に5月～6月にかけての栽培管理方法について説明しました。活発な質疑応答から参加者の生食用ぶどう栽培に対する意気込みが感じられました。

また、参加者同士の情報交換も行われ、地域を越えた横のつながりも強化された様子でした。

普及センターでは、今後も生食用ぶどうの適期管理について技術習得の支援を行っていきます。

○北浦梨の摘果講習会が開催されました 令和6年5月28日 美里農業改良普及センター



美里町の「北浦梨」は大正時代から続く特産品で、県内有数の日本なし産地となっています。

J A新みやぎ北浦梨部会（部会員35人）は、令和6年産の高品質な果実生産に向けて、5月20日に摘果講習会を開催し、部会員等12人が参加しました。

はじめに、美里農業改良普及センターから予備摘果の実施時期や残す果実の基準等の基本事項について説明し、次に実際に摘果しながら幼果の形や大きさ、着果位置などを踏まえた判断基準について参加者同士で意見交換を行いました。

その後、J A新みやぎ小牛田営農センターに移動して講習会資料の説明や生育調査園地における発芽・展葉・開花時期の調査結果や気象経過、関東以西で注意報が発令されている果樹カメムシ類の生態や防除のポイント等について研修を行いました。また、今年度から普及センターのプロジェクト課題として取り組んでいる「ICT活用による栽培の『見える化』」の一つとして、なし園地内の気温や湿度等をリアルタイムに測定・確認できるモニタリング機器の設置及びデータ確認方法について情報共有を行いました。

普及センターでは、引き続き高品質な果実の安定生産に向けた支援を行っていきます。

○JAみやぎ登米そらまめ部会の現地検討会が開催されました 令和6年5月29日 登米農業改良普及センター



令和6年5月17日に、J Aみやぎ登米そらまめ部会主催の現地検討会が開催され、部会員20名が参加

しました。

現地検討会では、生育状況や発生している病害虫などについて部会員と確認を行いました。その後普及センターから、病害虫が発生しやすい天候や時期に加え、より効果的に防除を行えるように、管理ポイントを説明しました。また、全農みやぎ園芸・生産振興課からは、今年の市場の動向や他産地の出荷量などについて説明がありました。

早いほ場では5月下旬から京浜市場を中心に出荷が始まる見込みです。今年も良質なそらまめの出荷が期待されます。

○抑制きゅうり品種説明会が開催されました！

令和6年5月31日

石巻農業改良普及センター



令和6年5月22日にJAいしのみき主催の石巻市きゅうり生産組合令和6年産抑制きゅうり品種説明会が開催されました。10人の生産者が参加し、促成作の振り返りと抑制作の管理と品種の検討を行いました。

促成作は、2月は高温、3月は低温という不安定な気候でしたが、全体的に乾燥傾向で推移し、収穫の山谷が少なく安定した出荷が行なわれました。抑制作へ向けては、昨年のような暑さを想定し、品種の選定や、定植後の管理を確認しました。

普及センターからは、今後の管理と病害対策について情報提供を行いました。これからも巡回などを行いながら、高温対策や栽培管理の支援を行います！

⑤収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援

○種子大麦生産ほの第1期ほ場審査を行いました！

令和6年5月13日

石巻農業改良普及センター



令和6年4月19日～30日に管内の農業法人5法人を対象に種子大麦のほ場審査を行いました。当管内では石巻市で30.4ha、東松島市で5.8haの種子大麦の生産が行われています。

大麦の種子生産ほでは出穂期と糊熟期の2回ほ場の審査が行われますが、今回、1回目の審査（出穂期審査）を行いました。審査には生産者、JAいしのみき職員が立ち会い、生育状況や栽培管理状況、変種・異品種の有無、病害虫について審査をしました。昨年に続き、今年も気温が高く、平年より生育が早い傾向にあるため、赤かび防除と適期刈取に向けた準備を進めるよう指導を行っています。種子大麦の生育はおおむね良好で全ほ場が合格となりました。

当普及センターでは、栽培指導や審査を通して優良な種子大麦の生産を支援していきます。

○稲種子生産ほの育苗巡回を行いました

令和6年5月16日

登米農業改良普及センター



令和6年5月9日に、JAみやぎ登米水稻種子採種組合の育苗巡回を行いました。

JAみやぎ登米水稻種子採種組合では、「ひとめぼれ」と「だて正夢」の種子を生産しており、毎年育苗の時期に各組合員のハウスを回って苗の生育状況や管理の状況を確認しています。

普及センターでは、苗の病害の有無、品種が間違っていないか、食用米と区別して適切に管理されているかといった点を重点的にチェックしています。

今年は育苗期間を通して最高・最低気温が平年よりもかなり高く、苗の草丈がやや長い傾向が見られましたが、問題となる病害は特になく、生育状況は概ね良好でした。5月中旬から順次田植が始まる予定です。

次回は、6月中旬に移植後の採種ほ場を確認する計画です。

普及センターでは、今後も優良種子生産について支援を行ってまいります。

○上品山牧場の開牧式が行われました
令和6年5月21日
石巻農業改良普及センター



令和6年5月17日、石巻市営牧場である上品山牧場の開牧式が行われました。上品山牧場は、老朽化による給水管の破損のため、令和5年度は牛の受入れを中止していましたが、畜産農家から再開を望む声があり、3月に給水管工事を実施し、2年ぶりに牛の受入れを再開しました。

当日は、石巻市内9戸の畜産農家から29頭の繁殖雌牛（黒毛和牛）が入牧し、衛生検査や体重測定、牛体消毒等の実施後、牛たちは、広々とした草地に放牧され、のびのびと過ごしていました。

令和6年度は、10月25日まで放牧地として開放される予定です。

○深山牧野で牛の放牧がはじまりました！
令和6年5月22日
栗原農業改良普及センター



令和6年5月21日、栗原市営深山牧野で今年も牛の放牧が開始されました。

深山牧野は栗原市の北西部、栗駒文字地区に位置し、北の方角に栗駒山を見渡すことができる標高545mの眺望のすばらしい牧場です。

昭和45年開牧と古くからの歴史があり、40牧区120haと広大な草地は県内でも有数の公共牧場であり、県内和牛主産地である栗原畜産の核となってい

ます。

今年は、およそ100頭程度の牛を預かる予定となっており、妊娠の有無等で群分けし、分娩予定日の1～2か月前まで牧場で新鮮な青草を食べて過ごします。

放牧のメリットとして、傾斜のついた草地の移動により、牛の足腰が強くなるなど健康な状態となり、繁殖牛の分娩事故が少なくなるなどの報告があります。

繁殖牛経営を取り巻く情勢は、社会情勢や円安の影響、世界的な気候変動等に起因する飼料や資材の高騰、飼養農家の高齢化や担い手の不足等、経営の継続が非常に厳しい状況となっており、公共牧場は繁殖牛の繁殖機能回復や健康維持、飼養農家の生産コスト低減等に大きな役割を果たしています。施設の積極活用により、経営安定の一助となることが期待されます。

○えだまめの播種作業が行われました
令和6年5月28日
気仙沼農業改良普及センター



気仙沼市本吉町表山田・三段田地区では、ほ場整備事業を推進するため推進委員会が設立され、地域農業の収益向上に向けて、高収益作物の候補として、えだまめ栽培を昨年度から取り組んでいます。

令和6年5月15日は地区の方々10名が表山田地区の試験ほ場に参集し、えだまめの播種作業が行われました。委員長からのあいさつの後、栽培担当者から播種方法について説明が行われ、この後、各々がマルチの穴あけ、殺虫剤散布、播種の係に分かれ作業を開始しました。最初は手間取った様子でしたが、次第にコツをつかみ、和気あいあいとした中で作業に汗を流しました。作業終了後は、今後の取組について打合せを行い、地域の連帯感、結束力を垣間見た感じがしました。

今後、農地の利用や担い手への農地の集積などの話し合いを通して、地区の合意形成を図っていく必要があることから、普及センターでは引き続き地域の取組を支援してまいります。

2. 持続可能な農業・農村の構築

①環境に配慮した持続可能な農業生産

○気仙沼金のいぶき協議会の令和6年度通常総会が開催されました

令和6年5月1日

気仙沼農業改良普及センター



気仙沼金のいぶき協議会の令和6年度通常総会が令和6年4月19日に気仙沼合同庁舎オープンラボを会場に開催されました。同協議会は「金のいぶき」のブランド化を推進するために令和5年4月に設立され、気仙沼市の金のいぶき生産者6者、卸小売業者、気仙沼市産業部農林課、JA新みやぎがメンバーとなっております。

総会では、令和5年度を取組として、牡蠣やホタテの貝殻を土づくりに使用するとともに、マイクロプラスチック海洋汚染を防止し、プラスチックコーティングされた肥料を使用しないで栽培した「金のいぶき」を「港町玄米（気仙沼金のいぶき）」として商品開発し、商品米袋やリーフレット等を作成したほか、試食会の開催等が報告されました。

令和6年度も引き続き、海のまち気仙沼ならではの米づくりをPRし、ふるさと納税の返礼品としての利用も検討しながら、気仙沼産米のブランド力、認知度の向上による販売拡大を目指していくことを確認しました。

また、気仙沼市内の米小売業者等2者が新規会員として加わることになりました。

地域の新たな特産品として、稲作経営の発展につなげていけるよう、引き続き支援を行っていきます。

○「グリーンな栽培体系」を目指して、ペースト二段施肥田植が行われました

令和6年5月27日

登米農業改良普及センター



登米市は環境保全米の栽培が県内一盛んな地域です。

昨年度は、「ペースト肥料の田植同時施用によるプラスチック被覆肥料の利用削減及び減肥栽培」や「ペースト肥料以外の非プラスチックコーティング肥料を用いた栽培」等、従来の環境保全米から一歩進んだ「グリーンな栽培体系」と生産者の選択肢拡大に向けた検証を行い、従来の環境保全米とほぼ同等の品質・収量が得られることを実証しました。

今年度も、「グリーンな栽培体系」の普及拡大に向け、JAみやぎ登米、肥料・農機メーカーの協力のもと5か所の展示ほを設置しました。

このうち5月20日の登米市豊里町の展示ほでは、「田植えと同時に、10a当たり2.1kgの窒素分量のペースト肥料を3cmと9cmの深さに施肥」という設計のもと、最新式の8条田植機で田植を実施しました。

当日はあいにくの雨となりましたが、大きなトラブルもなく、60aの田植えは約1時間で終了しました。また、「雨でも肥料補給が可能」というペースト肥料のメリットも確認することができました。

今後は、定期的な生育等の調査でグリーンな栽培体系の検証を行うとともに、情報発信により普及拡大を図っていきます。

普及指導員が県内9か所の普及センターで、農業者を支援しています。

<大河原>
〒989-1243
大河原町字南 129-1
TEL:0224-53-3519

<亙理>
〒989-2301
亙理町逢隈中泉字本木9
TEL:0223-34-1141

<仙台>
〒981-0914
仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
TEL:022-275-8320

<大崎>
〒989-6117
大崎市古川旭四丁目1-1
TEL:0229-91-0727

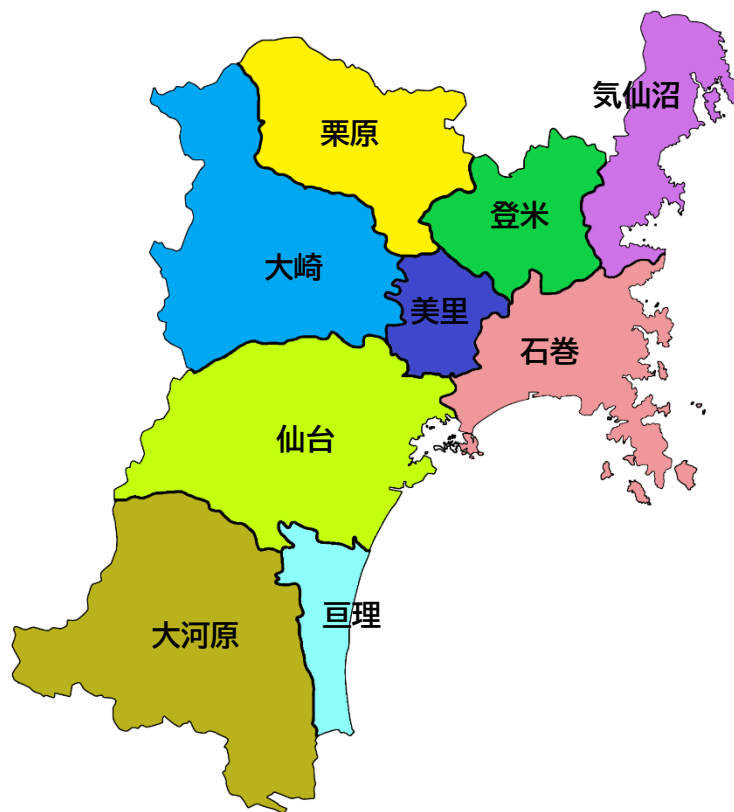
<美里>
〒987-0005
美里町北浦字笹館5
TEL:0229-32-3115

<栗原>
〒987-2251
栗原市築館藤木5-1
TEL:0228-22-9404

<登米>
〒987-0511
登米市迫町佐沼字西佐沼 150-5
TEL:0220-22-8603

<石巻>
〒986-0850
石巻市あゆみ野5-7
TEL:0225-95-7612

<気仙沼>
〒988-0181
気仙沼市赤岩杉ノ沢 47-6
TEL:0226-25-8068



***各農業改良普及センターには、「地域の食と農の相談窓口」を設置しております。食や農に関して知りたいことがありましたら、上記連絡先にお問い合わせください。**

みやぎの農業普及現場 NEWS LETTER No.208

発行日:2024年6月17日

発行:宮城県農政部農業振興課

編集:宮城県農政部農業振興課普及支援班

TEL:022-211-2837 FAX:022-211-2839

E-mail : gbfs@pref.miyagi.lg.jp